



CSR経営評価意見書

京阪電気鉄道株式会社 御中

2009年 7月 17日
株式会社 環境管理会計研究所

國部克彦

國部克彦(神戸大学大学院教授/取締役)

梨岡英理子

梨岡英理子(取締役/公認会計士・税理士)

1. 意見書の目的

京阪電気鉄道の事業と関係のない第三者として、同社が作成する「CSRレポート2009」に記載されているCSR経営活動の評価を行うことにより、報告書の信頼性を高めることを目的として所見を述べます。

2. 実施した手続き

京阪電気鉄道のCSR経営活動がどのように計画され実行されているのか、その結果であり開示情報の基礎でもあるパフォーマンスデータが、どのように作成され、評価され利用されているのかについて、上田成之助社長へのインタビューを行うとともに、鉄道事業部をはじめ社内各部門・事業所を訪問し、関連書類の調査や各担当者への質疑を行いました。また寝屋川車両工場他では公表される数値の根拠資料について定められたシステムどおりの作業が行われているか、必要に応じて財務監査の手続きに準拠した手法を用いて基礎的な審査を行いました。(今回訪問した部署・訪問場所は別表参照)

3. 評価意見

京阪電気鉄道のCSR活動は、「京阪グループ経営理念」のもとで、「行動憲章」、「経営姿勢」、「環境理念」の3つが有機的に体系化された取り組みが行なわれています。2008年度は、中之島線の開通という京阪グループとして非常に大きなイベントがありました。これを受けて京阪グループでは後述するCSRの新しい取り組みも始められました。定期的を実施している京阪グループ全従業員を対象としたCSR浸透度調査アンケートも2008年度に実施され、従業員へのCSRの再確認と共にPDCAマネジメントサイクルが回る仕組みが充実されました。

安全への取り組みに関しては、社長、安全統括管理者の指揮のもと、輸送の安全確保を最優先とする運輸安全マネジメント体制が構築されていますが、2008年度は鉄道安全大会の設置など、経営トップが主導するマネジメントシステムの進化が見られています。また、風通しの良い職場風土づくりに向けたコミュニケーションの場の創出など、実践的な取り組み姿勢は評価できます。

CSR活動および社会への取り組みに関しては、お客さまセンターの活動の充実や鉄道CS推進会議の発足など、顧客の声を吸い上げ、マネジメントに落とし込む活動が見えるようになってきました。今後は、京阪電気鉄道としてCSRビジョンをより明確にした体系的な活動が望まれます。そのうえで、CSR目標の設定、結果の開示など、CSRマネジメントの進化が期待されます。

環境への取り組みに関しては、鉄道電力の削減をはじめとする環境負荷低減に取り組まれています。2008年度は、新線開業にともない使用電力量の増加が見込まれましたが、ほぼ目標を達成されています。今後は、長期的視点に立った環境目標の設定と地球環境保全に向けた企業姿勢の積極的な表明が必要になると考えられます。なお、環境パフォーマンスデータの算出について、上記の手続きに従って基礎的な審査をした範囲では重大な間違いは認められませんでした。